

大学の世界展開力強化事業（平成25年度採択）事後評価結果

大学名	○北海道大学、東京大学、酪農学園大学
整理番号	1
事業名	日本とタイの獣医学教育連携:アジアの健全な発展のために

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) B	事業計画をやや下回っているが、事業目的はある程度実現された。
(コメント)	
<p>本プログラムは、北海道大学、東京大学、酪農学園大学の3大学が連携し、ASEAN地域の獣医系大学をリードするタイのカセサート大学との交流により、新興・再興感染症、食の安全、動物福祉及び環境保全等の問題解決を目指すというビジョンの下で実施されたものである。</p> <p>養成するグローバル人材像は明確であり、派遣・受入学生の涵養すべき具体的能力についても獣医学分野がグローバル化する環境において明快に示され、AIMSプログラムルールに則った単位の読替えや、単位相互認定、成績管理などを質の保証を伴って実施した点は評価できる。また、専門性の高い獣医学教育について、単位互換を伴った海外との学生交流が実現可能であることを示した点は、大きな貢献を果たしたと言える。</p> <p>一方で、留学意欲を高めるとともに学生交流活動を活発化させるための努力は成されたが、派遣・受入学生数の目標達成には至らなかった。また、大学間でのカリキュラムや授業評価基準等の統一などについては、3大学の連携をプログラムの柱の1つとして位置付けていながらも、各大学の学生にとって教育効果の高いプログラムとなることを優先した結果、その展開においては大学間で温度差が見られた。今後は、国内調整会議などを通じて問題を共有し、連携を強化していくことが望まれる。また、派遣学生の英語力やコミュニケーション能力の向上、受入学生の異文化相互理解や信頼関係の構築等の成果に関しては、具体的かつ客観的な事例や指標を用いて評価することで実態を把握することが求められる。それらの結果から得られた問題点を洗い出し、学生の要望やアイデアなども参考にして、学生の受入や派遣活動の活性化を図る努力が求められる。さらに、成果に関する広報についても、一般的な活動に加え、本事業の特徴を社会に対して発信していくことが望ましい。</p> <p>なお、補助期間終了後については3大学ともに独自予算の確保により本プログラムを継続することとなっていることから、今後の運営に期待したい。</p> <p>最後に、本事業による補助期間は終了したが、引き続き質の保証を伴う発展的な事業展開によって、我が国の大学教育を牽引し、更なるグローバル展開力の強化に寄与していくことが期待される。</p>	